

ア 設置の趣旨及び必要性

(a) 教育研究上の理念、目的

① 研究対象とする学問分野

設置する学部が組織として研究対象とする学問分野は、家政学関係（現代家政学科、健康栄養学科、生活デザイン学科）、教育学関係（児童学科）及び社会福祉学関係（人間福祉学科）である。

② 本学の建学の精神、教育理念

本学の建学の精神は、広く知（knowledge）を求め、それを裏付ける技（art）を磨き、これらを方向付ける徳（virtue）を備えた女性を社会に送り出すことである（「KVA精神」と呼んでいる。）。広く深い教養教育を土台に高度の専門教育を授け、知徳を磨き、応用能力を伸ばし、もって新時代にふさわしい心身ともに健全な良き社会人・家庭人としての女性を育成することを教育理念とする。

③ 本学の教育研究の実績

本学では、これまで家政学部において、現代家政学科、健康栄養学科、住居学科、児童学科を設置し、家庭経営、消費者支援、衣食住、子どもの養育等に関する教育と研究の体制を整え、有為な人材を社会に送り出してきた。さらに人文学部において、日本文化学科、工芸文化学科、文化情報学科及び人間福祉学科を設置し、私たちの生活を支える文化及び高齢者や障害者の福祉に関する教育と研究を実施してきた。

④ 現代社会の課題

これに対し、激動する現代社会、なかでもグローバル化、少子高齢化の急激な進行、地球規模の環境悪化は、家族や人間関係、生活環境に大きな変化を及ぼし、現代社会において個人を孤立させる傾向を強めている。こうした中で、社会情勢に影響されることなく、充実した豊かな生活を実現するためには、これまでの標準的な家族や地域を前提とした個別的な知識や技能では対処が困難となっている。

⑤ 新しい学部の構想

このような現代社会の課題に対処し、持続可能な社会を築いていくため、現代社会の要請を十分踏まえ、私たちの生活全体を生活者の視点に立って再構築する必要がある。その学問領域としての家政学に求心力回復の動きが見られる中、本学としても、これまでの教育・研究の成果を継承・統合し、現代的課題に応え、個人、家庭、地域、地球社会の豊かな生活の実現に貢献できる人材を育成し得る教学と管理運営の体制を整備することが必要であるとの認識のもと、その出発点として、現代生活学部を構想した。

それは、一人一人の生涯にわたる「ライフステージ軸（縦軸）」、私たちを取り巻く家庭・地域・地球社会の「リレーションシップ軸（横軸）」、そして、歴史・文化を継承し未来を築く「時間軸」を、現代を交点（原点）とし、生活という視点から統合しようとするものである。

現代生活学部は、次のような学科で構成される。

「現代家政学科」

現代家政学科は、家族・消費者を中心に家政学の専門教育・研究を進め、生活文化の担い手としての深い教養を持ち、かつ現代社会の複雑・多様な課題を発見し、人々と協働して解決することのできる優れた実践力、社会力を有する人材の育成を目的とする。

今日、めまぐるしく変化する社会の情勢に迅速かつ敢然と対応し、その社会をリードすることのできる家政学が求められている。したがって、本学科は、家政学の根本にある生活の営みの総合性・統合性を取り戻し、豊かな人間性を基本とする総合的な知を育み、かつ高いコミュニケーション能力によって多文化共生社会を企図できる指導力を涵養する。また、持続可能な循環型社会構築のために、次代を担う者の育成は重要な現代的課題である。本学科はこうした変化する社会の動きとそのニーズに対応し、新しい道を切り拓くことができるよう、企業、自治体、国の機関と連携しながら、演習・実習科目を通して体験に基づく専門の知識や技能を習得し、現代的課題に対処しようとするものである。

「健康栄養学科」

健康栄養学科は、健康的な生活の構築に寄与できる人材の育成を目的に、生命維持に直結する「食」を通して、生活の評価・設計・実施に関する学際的アプローチをもととする教育・研究により、社会における人的有効資源となり得る有能な管理栄養士を養成する。即ち、本学科は、「食」を通して、乳幼児から高齢者に至る様々な状態の人々の健康的な生活のあり方について理論的かつ実践的に探求する。

本学科は管理栄養士養成課程として、基礎的知識・技術の修得も重要であることを踏まえ、実習・体験的学習の充実を図り、基礎力と応用力を備えた「即戦力ある人材」、「向上心ある人材」の育成を目指す。

「生活デザイン学科」

生活デザイン学科は、生活の質の向上と安心・安全に暮らせる社会を実現するため、生活者の立場から、人と自然に優しい生活（暮らし）をデザインし実現する能力を持ち、それをもとに社会に貢献できる特性を備えた人材を育成することを目的とする。めまぐるしく変化し複雑化している現代社会においてこの目的を達成するためには、生活に関する諸テーマに適切に対応して解決する能力と、新しい道を切り拓く能力の両方を備えた人材の育成が必要である。

本学科では、家政学の学問分野において、高い専門性と幅広い知識を併せ持つことができるよう、生活の基本となる「衣」「食」「住」に加えて、「ものづくり」を設けることにより、表現力と応用力、生活環境の変化や多様な価値観に柔軟に対応できる感性を身につけることができるよう配慮している。このことは、良き生活者の視点で、社会及び家庭において、生活をデザインできる女性の輩出につながる。

「児童学科」

今日の社会においては、児童虐待や子育て不安、ネットいじめ等、従来見られなかった多様で複雑な児童問題が多発している状況があり、発達途上の子どもへの影響の重大さから、一刻も早い問題への対応と解決が必要とされている。

児童学科は、今日の児童をめぐる様々な問題への対応と解決に貢献するために、未来を担う

子どもたちの幸せと健全で豊かな発達が実現できるような人間関係、人間生活について探究することを目的とする。この目的を達成するために、総合的な視野と叡智を持ち、子どもの理解と問題の解決に優れ、人間性豊かで実践力のある専門家を育成する。また、子どもを取り巻く人的、物的環境をつなぎ、豊かな環境や文化の創造に貢献でき、社会の様々な分野で活躍できる人材を養成する。

「人間福祉学科」

わが国は、他の国に例を見ない急速なスピードで高齢社会を迎えて、独居高齢者の増加、老々介護等の問題が深刻な現状である。また、子どもを取り巻く環境も大きく変化し、子育ての中の家族の不安感・負担感・孤立感が大きくなり、虐待につながる要因になっている。さらに、経済的な困窮に直面している人たちが増加の一途をたどっており、障害を持つ人たちに、そのしわ寄せが及んでいる。

このような自分の力だけでは社会生活を維持することの難しい環境に置かれている人たちに社会保障・社会福祉制度の利用を促進し、自分らしい自立した生活の実現を支援する、マネジメント力のある社会福祉専門職を養成することを目的とする。

人間福祉学科は、このような現代的課題と取り組むために、共に生きることの意味を深く理解し、高度な支援スキルを習得し、生活をする上での困難の解決・軽減を支援するソーシャルワーカーとしての人材を育成する。

また、これまで「住居学科」、「日本文化学科」、「工芸文化学科」、「文化情報学科」が担ってきた生活文化の教育と研究は、上記5学科の専門科目の一部を構成するとともに、全学科に共通して必要な基盤として位置づけられる。また、グローバル化への対応に不可欠な語学教育と情報技術の教育を強化するとともに、現代社会の理解に欠くことのできない人文科学・社会科学・自然科学の素養を重視する教養教育の中核を担うこととする。

以上のとおり、現代生活学部は、知、徳、技のバランスを重視する建学の精神に基づき、生活者の視点から、家政（衣、食、住、家族・消費、生活文化）、教育（初等教育、幼児教育、保育）、福祉（社会福祉、医療・精神福祉、児童福祉、介護福祉）の3分野を中心的な学問分野として教育・研究を行い、個人・家庭・地域の豊かな暮らしはもとより、地球規模の問題解決に貢献できる人材を育成し、社会に送り出すことを目指す。

(b) どのような人材を養成するか

「現代生活学部」

激動する現代社会において、人と人が手を取り合って心豊かな生活を実現することができるよう、取り組むべき課題を的確に把握し、解決策を見だし、それを実行することができる能力を持つ人材を育成する。さらに、広く深い教養を身につけて、個人や家庭や地域の問題から地球社会の問題に至るまで取り組むことができる能力を持つ人材や、それぞれの領域においてリーダーシップが取れる人材を養成する。

「現代家政学科」

家族・消費者・環境・生活文化を中心に家政学の専門教育を進め、現代社会の複雑・多様な諸課題を発見し、人々と協働して解決する能力や、新しい道を切り拓くことのできる実践力・社会力、そしてコミュニケーション能力を基礎に多文化共生社会を企図できる指導力、生活文化の担い手としての学識を備えた人材を育成する。具体的には、家族支援の専門家、消費生活相談員、ライフプランのアドバイザー、国際協力や環境教育のNPO・NGO職員、生活ビジネス起業家、学芸員、中・高等学校教員等を養成する。

「健康栄養学科」

「食」を通して、生涯にわたる生活を評価・設計・実施するという学際的アプローチを基本とする教育・研究を行い、乳幼児から高齢者に至る様々な身体状況、健康状態の人々の生活について理論的・実践的提案を行い、健康な生活の構築に貢献できる人材を育成する。具体的には、病院・学校・福祉施設等で仕事をする管理栄養士や、食品の開発などを行うフードビジネス（宅配食事・外食産業など）従事者等を養成する。

「生活デザイン学科」

生活の基本となる「衣」「食」「住」について教育・研究を行い、家政学の学問分野についての複合的・総合的な学びを通して、高い専門性と幅広い知識を備えた人材を育てる。さらに、「ものづくり」を加え、表現力・応用力・感性を身につけた人材を養成する。学科全体として、人や自然に優しい生活（暮らし）をデザインし、それを実現できる能力を備え、社会に貢献できる人材を育成する。具体的には、アパレル産業やフードビジネスの従事者、建築士、インテリアや工業デザイナー等を養成する。

「児童学科」

未来を担う子どもの幸せと健全な発達を実現できる人間関係と人間生活について探求し、子どもを取り巻く人的・物的環境をつなぎ、豊かな生活環境や文化の創造に貢献できる人材を育成する。具体的には、保育士、幼稚園・小学校教諭、認定心理士、絵本や児童文学関連の出版業従事者、教育玩具開発・製造・販売業従事者等を養成する。

「人間福祉学科」

身体の病気、心身障害、高齢または経済的な理由により幸福な社会生活を送ることが困難になった人たちが自立した生活を実現できるよう、共に生きることの意味を理解し、高度な支援スキルを修得し、生活上の困難を解決・軽減できる人材を育成する。具体的には、福祉施設や自治体で仕事をする社会福祉士や精神保健福祉士といったソーシャルワーカーに加えて、認定心理士、福祉サービス（福祉器具の開発・製造・販売・貸出業）や福祉ビジネス（NPO等）の従事者、ヘルスケアビジネス従事者等を養成する。

イ 学部・学科の特色

①学部の機能

現代生活学部は、上記アの趣旨及び必要性をもとに設置しようとするもので、「総合

的教養教育」、「幅広い職業人養成」、「地域の生涯学習の拠点」という本学の特徴的な機能を重視した教育・研究を展開する。

②学部教育の特色

建学の精神の基本である徳性・教養を身につけ社会で活躍できるよう、リベラルアーツを重視することが、本学部の最大の特色である。人間が持つ一生涯の可能性を最大限に引き出す「ライフステージ軸」、家庭・地域・地球へと、社会との関係性を広げる「リレーションシップ軸」、生活文化の継承と創造のための「時間軸」の三つの軸に沿ったカリキュラムを編成し、人間が持つ力を最大限に引き出す仕組みをつくることのできる専門家を育成する。

特に、学外の諸機関・施設・企業等との連携・協力関係を強化し、即戦力となる実践力のある職業人を育て、社会に送り出す。

③設置する学科の特色

設置する学科の特色は以下のとおりである。

(各学科で取得可能な資格については、「[ケ](#) 資格取得」に再掲)

「現代家政学科」

現代家政学科は、「ライフステージ軸」では、誕生から死亡まで個人の可能性を引き出す生活設計と次世代をつくる生活主体形成カリキュラムを用意する。「リレーションシップ軸」では、家族・消費者の相互支援、ツーリズムによる異文化理解・多文化共生、都市東京における文化交流や発信を通じてコミュニケーション能力の技を磨き持続可能な社会を形成する。

「時間軸」では、歴史と現代を融合させ、生活者としてのアイデンティティを確立し、伝統文化を継承しつつ新しい生活文化を志向する。学生が主体的に履修内容を編成し、産学官連携の演習・実習、インターンシップや地域社会連携事業の企画運営など、実践的学びを通じ、家政学の使命である生命・生活の再生産を実現する。

本学科では自主的な学びの選択肢が広いことが一つの特徴であるが、学生が明確な目標や主題を持って学習できるよう、4つの履修モデルを用意する。本学科で取得できるのは、中・高等学校教諭一種免許状と学芸員資格であるが、他にフードスペシャリスト、2級建築士の受験資格も取得可能である。

「健康栄養学科」

健康栄養学科は、国民の健康と豊かな生活をリードできる管理栄養士の育成に力を注いでいくことを目標とする。「ライフステージ軸」では、乳幼児から高齢者に至る人間の発達と健康の維持・増進を「食」との関わりから探求する能力を培うカリキュラムが用意されている。また、本学科の最大の特色は、学生自身が社会の中で課題を発見・発案・実践していく力を培うために、「リレーションシップ軸」を柱として充実させていることであり、学外の管理栄養士現職者との交流や産学連携を深めるなど、「食」に関わる個人・家庭・地域の資源を開拓する実習・演習を実施していく。さらに、「時間軸」として、食・健康に係わる伝統文化に着目した教育を進めていくこととする。

管理栄養士になりたいという学生の意志を受け止め、4年間で、専門性を高め、学生の個性を伸ばし、望む進路に応じて多様な管理栄養士を養成していくことが、本学科の使命である。

現在、管理栄養士は、社会構造と人々の生活行動の関連を把握する力、人間の発達と健康を把握する力、医療・保健・福祉・教育システムと「食」の関わりを把握する力、これらをもとに栄養ケアマネジメントを行い、健康をプロデュースする資質が求められている。さらに、これらを目指した教育はもとより、地域や社会の資源を開拓し、それらをコーディネートする能力や、異業種を交えたカンファレンスなどでファシリテーター（facilitator）の役割を担う能力を育成する。

本学科では学生の進路希望、関心に応じた学習を支援するため、4つの履修モデルを用意している。

本学科で取得できるのは、管理栄養士の受験資格と栄養教諭一種免許状である。

「生活デザイン学科」

生活デザイン学科の最も大きな特色は、本学家政学の歴史や伝統を引き継ぐ「衣」「食」に、専門性の高い教育で社会に貢献してきた「住」、それらを支える「ものづくり」を統合して学科を形成していることにある。このため、「ライフステージ軸」では、本学科の特色の一つである現在の生活環境に即した多くの実験・実習や演習・制作などの実践的・体験的な学習活動を通して、「衣食住」を科学的な視点で捉える力を養い、より確実な「知」を体得し、提案内容を「かたち」に表現できる「技」を身につけ、「リレーションシップ軸」では、「衣」「食」「住」「ものづくり」を有機的な関連性の中で学び、社会に開かれた大学として地域貢献や、研究所・企業での実習などを通して、人としての「徳」を育み、緑豊かな教育環境のもとで自然と人に優しい生活の実現を目指す。「時間軸」では、過去から現在までの「衣」「食」「住」に関する多くの蓄積された「知」を生活者の視点で有機的に融合し、本学科の新たな「知」へと発展させ、調和ある生活の実現と希望ある未来をめざし、各ライフステージに適した安心・安全な生活環境を創造する。

本学科では「衣」「食」「住」とこれを支える「ものづくり」のを総合的かつ複合的に学べるのが一つの特徴であるが、学生が明確な目標や主題を持って学習できるよう、4つの履修モデルを用意する。

本学科で取得できるのは、中・高等学校教諭一種免許状（家庭）と学芸員資格であるが、他に、1級衣料管理士、フードスペシャリスト、2級建築士の受験資格、さらに実務経験を積んだ上で1級建築士の受験資格も取得可能である。

「児童学科」

児童学科は、「ライフステージ軸」では、子どもの成長過程と個性、並びに子どもの保育・教育に携わる人の生涯に着目し、「リレーションシップ軸」では、子どもを取り巻く家庭、学校・保育所、地域社会、行政、企業の機能連携を視野に入れ、また、子どもと保育者・教育者の双方が成長するような関係の樹立を目指し、「時間軸」では、現在から将来に発展する基礎となる文化の継承を十分踏まえ、この三つの軸を柱として統合し、子どもたちの幸せと健全で豊かな発達のための研究・教育を行い、総合力と実践力を兼ね備えた人材を育成する。

本学科は、「発達と教育」「心理と臨床」「保育と福祉」「健康と文化」から、児童学の専門的な理論、方法と実践を学ぶ中で、学生のニーズや目的に応じて、多様なキャリアの選択が可能なことを第一の特色とする。

また、カリキュラムが、保育、教育、心理、文化、健康、福祉という各児童学分野の知識と技術の修得を目指しているだけでなく、これらの分野を総合的にも学べるように設定されていることが第二の特色である。

さらに、総合力と実践力を兼ね備えた人材を育成するために、総合演習・実習を充実させ、具体的には、学外での保育・教育実習及びボランティア活動、学内での乳幼児グループ活動（児童臨床実習）や子ども体験塾活動、心理劇や人形劇、野外活動等を取り入れた特色ある授業、カリキュラムを展開することとしている。

このような特色を踏まえて、本学科では、取得を希望する資格に対応できるよう4つの履修モデルを用意している。

本学科で取得できるのは、保育士免許、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状及び日本心理学会が認定する認定心理士資格である。

「人間福祉学科」

人間福祉学科の特色は、「ライフステージ軸」では、幼児から高齢者に至る生活上の不自由や障害を持った人々に対応できる「実践力」を養成し、「リレーションシップ軸」では、大学と地域の施設・機関あるいは企業との連携を土台にして、「福祉の対象となる人たちと共に生きる心」を育てるために、学内での演習と学外での実習が、相互に連携を保ってバランス良く行われるところにある。「時間軸」では、これまでの福祉の発展過程を理解し現代の課題に対応できる「応用力」を養成する。

少人数クラスで行う演習では、ロールプレイや事例検討により援助技術の基礎を習得し、さらに福祉現場における実習を通してこれを実践力に発展させる。こうした演習と実習による実践力の養成を図るため、学生の進路、希望する資格、関心に応じた学習ができるよう4つの履修モデルを用意する。

本学科で取得できるのは、高等学校教諭一種免許状（福祉）と、社会福祉士と精神保健福祉士の受験資格である。

ウ 学部、学科等の名称及び学位の名称

「現代生活学部」

人間の生活全体（福祉や環境や生活文化等を含む）を学問の対象とし、家庭や地域社会から地球規模のものまで、生活に関わる現代的な課題に果敢に取り組む人材を育成することを目的とするため、「現代生活学部」とする。

「現代生活学部」の英文名称は、「Faculty of Contemporary Human Life Science」とする。

「現代家政学科」

学科の名称は、現代の社会的ニーズに迅速かつ柔軟に対応できるという意味を強く伝えるため、「現代家政学科」とする。

学位の名称は、「学士（家政学）」とする。

「現代家政学科」の英文名称は、「Department of Modern Home Economics」とする。

「学士（家政学）」の英文名称は、「Bachelor of Home Economics」とする。

「健康栄養学科」

学科の名称は、教育内容の理解が得られ易い「健康栄養学科」とする。

学位の名称は、「学士（家政学）」とする。

「健康栄養学科」の英文名称は、「Department of Health and Nutrition」とする。

「学士（家政学）」の英文名称は、「Bachelor of Home Economics」とする。

「生活デザイン学科」

学科の名称は、教育内容を的確に表現し、かつ、高等学校の家庭科の科目名称でもある「生活デザイン学科」とする。

学位の名称は、「学士（家政学）」とする。

「生活デザイン学科」の英文名称は、「Department of Human Life Science and Design」とする。

「学士（家政学）」の英文名称は、「Bachelor of Home Economics」とする。

「児童学科」

学科の名称は、児童に関するすべての領域を教育・研究の対象としていることを伝えるために、「児童学科」とする。

学位の名称は、「学士（児童学）」とする。

「児童学科」の英文名称は、「Department of Child Studies」とする。

「学士（児童学）」の英文名称は、「Bachelor of Child Studies」とする。

「人間福祉学科」

学科の名称は、人間を対象とする社会福祉・保健現場のニーズに応える専門職養成に正面から対応していく意味を伝えるために「人間福祉学科」とする。

学位の名称は、「学士（社会福祉）」とする。

「人間福祉学科」の英文名称は、「Department of Social Welfare」とする。

「学士（社会福祉）」の英文名称は、「Bachelor of Social Welfare」とする。

エ 教育課程の編成の考え方及び特色

現代生活学部の各学科の教育課程は、「基礎科目領域」、「専門科目領域」、「資格科目領域」の3領域で編成する。更に、専門科目領域は、「学部共通科目」、「学科共通科目」、「モデルコース科目」の3分野で構成する。これらの領域及び分野にある授業科目は、現代生活学部各学科の設置の趣旨を実現するために必要な以下の①②③に示す力を養うことを目的として体系的に用意する。

①人間性を養う教育課程

教養教育及び人間教育を最優先の教育テーマとして掲げ、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するために、基礎科目を設置している。

基礎科目は、「文化と表現」「数理と情報」「からだと健康」「自然と環境」「社会と生活」「生き方の問題」「総合演習」「外国語」「日本語・日本事情」の9分野で構成する。なかでも、「生き方の問題」分野の「大江スミ先生を語る」は、創立者の生涯を学ぶことに

よって、本学院の学生であることに自信と誇りを持つよう、自校教育の位置づけとして用意している。また、「総合演習」分野の「リテラシー演習」、「海外研修」などは、基礎学力の向上と幅広い視野を身につけさせることを目的として用意している。特に、「リテラシー演習」は、全学科1年次の必修科目で、レポート作成に必要となる情報活用能力および日本語表現力を培うために、本学の学生に適した教材を独自に開発し、複数の教員がチームを組んで指導に当たることとしている。また、基礎科目については、外国人留学生のために開設する「日本語・日本事情」分野を除く8分野全般に渡って1年次に履修することを推奨する。

②基礎的な知識・技術を養う教育課程

家政、教育、福祉の学問分野全般を学び、かつ、専門への導入教育のために、専門科目領域に学部共通科目分野を設置している。この分野の多くの科目を1・2年次に配置することで、入学初期の教育課程で衣、食、住、家族・消費、生活文化、初等教育、幼児教育、保育、福祉に関連する分野について幅広く学び、基礎的な知識・技術を養い、次の専門性を養う教育課程につなげる。また、基礎ゼミ（1年次）、キャリアデザイン（2年次）、インターンシップ（3年次）を各年次に配置することで、入学から卒業・就職までの学業支援ができるように構成されている。

③幅広い知識と高い専門性を養う教育課程

現代生活学部を設置する各学科の学問分野を複合的、かつ、学際的に学ぶために、専門科目領域に学科共通科目を設置し、さらに、高い専門性を養うためにモデルコース科目を設置している。以下に各学科別の特色を示す。

「現代家政学科」

現代家政学科の学科共通科目の「現代生活論」（2年次、必修科目）は、現代社会における諸問題について深く考えさせるものであり、「現代家政とKVA」（3年次）は知識と徳性と技術を兼ね備えた上で現代社会との関係を考察するものである。更に、高い専門性を養うために、専門科目領域にモデルコース科目を設置している。領域としては、「家族・消費者支援」、「環境・ツーリズム」、「ファッション・インテリア」、「生活と食の文化」を用意している。本学科の教育課程の最後に、4年間の学び及び人間形成の集大成として卒業研究A・B（必修科目）を4年次前・後期に用意することで、本教育課程の目的達成の確認を行っている。

「健康栄養学科」

健康栄養学科は、管理栄養士養成施設として指定されており、専門科目は管理栄養士の養成課程としての教育体系を整えていると同時に、学生が管理栄養士の社会的ニーズを把握し、希望する進路に応じて学習を深めることができるように選択科目を設けて専門性を高める教育を展開している。そのため、「栄養教育」、「臨床栄養」、「地域保健・福祉栄養」、「フードマネジメント」の4つの履修モデルを用意している。

また、近年社会的にニーズが高まっている栄養教諭に関しては制度創設時から「栄養教諭資格に関する科目」を設置して、栄養教諭の養成を行っている。

「生活デザイン学科」

生活デザイン学科では、人や自然に優しい社会をデザインするための基本である「衣」「食」

「住」とこれを支える「もの」に関する知識と技術の習得に必要な科目を配置している。

さらに、高い専門性を養うために、専門科目領域にモデルコース科目分野を設けている。この分野は、各学生が希望する専門性を養い、将来の進路に活かせるように実験・実習・演習系の科目を中心に構成されている。履修モデルとしては、「衣」「食」「住」「ものづくり」を用意している。また、専門科目領域に設置してある学部・学科共通科目及びモデルコース科目を履修することで、「衣」「食」「住」の各領域で高い専門性が要求される（受験）資格（1級衣料管理士、フードスペシャリスト、1級建築士）の取得が可能な教育課程としている。本学科の教育課程の最後に、4年間の学び及び人間形成の集大成として卒業研究A・B（必修科目）を4年次前・後期に用意することで、本教育課程の目的達成の確認を行っている。

「児童学科」

児童学科は、今日の児童をめぐる様々な問題への対応と解決に貢献するために、総合的な視野と叡智を持ち、子どもの理解と問題の解決に優れ、人間性豊かで実践力のある専門家を育成するための教育課程を設ける。「発達と教育」、「心理と臨床」、「保育と福祉」、「健康と文化」の4領域から、専門的かつ総合的に児童学の理論と方法と実践を学ぶことができるよう、取得できる資格にも配慮して4つの履修モデルを用意している。本学科の教育課程の最後に、4年間の学び及び人間形成の集大成として卒業研究A・B（必修科目）を4年次前・後期に用意することで、本教育課程の目的達成の確認を行っている。

「人間福祉学科」

人間福祉学科は、福祉サービスを提供するための総合的な知識と技術を身につける科目を配置している。モデルコース科目では、「福祉マネジメント」「医療・精神保健福祉」「児童福祉」「介護福祉」という4つの履修モデルを用意しており、それぞれの個性にあったソーシャルワーカー（社会福祉士など社会福祉事業に従事する人）としての高度な支援スキルをもつスペシャリストを育成する。本学科の教育課程の最後に、4年間の学び及び人間形成の集大成として卒業研究A・B（必修科目）を4年次前・後期に用意することで、本教育課程の目的達成の確認を行っている。

オ 教員組織の編成の考え方及び特色

教員配置にあたっては、学部及び各学科の教育・研究が円滑・的確に実施できるよう、大学設置基準で定められた基準を満たすとともに、管理栄養士養成施設、指定保育士養成施設の認定を受けている学科や教育職員免許法に基づく課程認定を受けている学科については、当該規則等で定められた基準を充足している。

学部設置にあたっては、全教員が専門教育及び教養教育を担うことを基本とした。現代生活学部に移行する、従前の「健康栄養学科」、「児童学科」、「人間福祉学科」については、学部の関係学科に配置し、従前の「現代家政学科」については、新しい「現代家政学科」または「生活デザイン学科」に配置した。従前の学部の他の学科については、これまでの教育・研究成果を活かし、新しい学科の専門科目の一部を担うとともに、情報化、グローバル化に対応する語学、情報関係の科目及び本学が重要視する教養教育・人間教育を担う教員として配置する。

カ 教育方法、履修指導方法及び卒業要件

①卒業要件、教育方法

本学を卒業するためには次の2つの要件を満たす必要がある。

- ・4年以上在学すること。ただし、3年以上在学し、卒業の要件として定める単位を優秀な成績をもって修得したと認められる者については卒業を認定することがある。（早期卒業制度）
- ・所定の授業科目及び単位数を修得すること。

各学科別の卒業要件の単位数は以下のとおりである。

			現代家政 学科	健康栄養 学科	生活デザイン 学科	児童学科	人間福祉 学科
基礎科目区分	基礎科目領域	必修	1	1	1	1	1
		選択	29	16	29	19	29
小計			30	17	30	20	30
専門科目区分	専門科目領域	必修	7	98	8	24	7
		選択	57	11	56	50	57
小計			64	109	64	74	64
上記2科目区分の中から自由に選択する単位数			30	4	30	30	30
卒業必要最低単位数合計			124	130	124	124	124

大学設置基準に基づき定められた本学学則並びに「教育課程及び履修方法に関する規則」に則り教育を行う。

②履修指導方法

基礎科目は、「文化と表現」「数理と情報」「からだと健康」「自然と環境」「社会と生活」「生き方の問題」「総合演習」「外国語」「日本語・日本事情」の9分野で構成されており、「日本語・日本事情」は、外国人留学生のための科目である。幅広く深い教養及び総合的な判断力を培うために「文化と表現」「数理と情報」「からだと健康」「自然と環境」「社会と生活」「生き方の問題」の各分野から最低2単位は修得することとしている。

学部共通科目は、95科目を用意しているが、各学科への導入科目として開設する「基礎ゼミ」を必修としているほかは、各学科の示す履修モデルに基づき履修指導を行う。

学科専門科目（学科共通科目、モデルコース科目）については、上記の各学科の特色、教育課程の編成の考え方と特色に記載のとおり、学生がそれぞれの希望や関心に応じて混乱なく的確に学習ができるよう、各学科の養成する具体的な人材像を掲げ、履修のモデルを用意し、個別の学生に懇切な履修指導を行うこととしている。

「現代家政学科」

現代社会の課題に対処するための学習が効果的にできるよう、「家族・消費者支援（家族支援・消費者教育）」、「環境・ツーリズム（エコツーリズム・国際協力）」、「ファッション・インテリア（ファッショントレンド・インテリア文化）」、「生活と食の文化（食文化・都市東京）」という4つの履修モデルを用意する。個々の学生が職業や社会貢献などの目標を定めて、専門性を高めるよう指導する。また、履修モデルに基づく教職員による個別の履修相談を

充実させ、資格取得支援を促進し、学生相互のピアサポートを実施して履修指導を行う。

「健康栄養学科」

健康栄養学科は、管理栄養士養成課程であり、管理栄養士としての基礎力と応用力を備えた有能な人材の養成を目指して履修指導しており、学生の進路希望、関心に応じた学習ができるよう、「栄養教育」「臨床栄養」「地域保健・福祉栄養」「フードマネジメント」という4つの履修モデルを用意する。また、学生の教育の到達目標として重視している管理栄養士国家試験の合格に向けても懇切な履修指導を行う。

「生活デザイン学科」

社会及び家庭において、良き生活者の視点で生活をデザインできる女性を輩出するために、4つの履修モデル「衣（材料・管理／服飾造形）」、「食（食企画・食品開発／調理・食文化）」、「住（住宅・インテリアデザイン／建築デザイン）」、「ものづくり（クラフトデザイン／情報デザイン）」を用意する。資格取得を目指す学生には、効果的に資格を取得するための履修モデルを提示して、取得科目が一目で分かるように履修指導を行う。

「児童学科」

保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、認定心理士といった資格と関連させながら、保育・教育・心理・文化・健康・福祉という広範囲にわたる児童学を、総合的に修得することができるよう教育し、履修指導を行う。また、2つ以上の資格の取得をめざす学生には、取得科目が一目で分かるように履修指導を行う。

「人間福祉学科」

全学生が社会福祉士の資格を目指す、学生の進路希望や関心に応じた学習ができるよう「福祉マネジメント」「医療・精神保健福祉」「児童福祉」「介護福祉」という4つの履修モデルを用意する。また、社会福祉士、精神保健福祉士という資格は、対人援助を主な業務とする職種であるため、社会と人間、あるいはコミュニケーション技術の習得ができるよう、演習や実習に重点を置いて教育すべく、履修指導を行う。

③登録上限、他大学履修、GPA制度利用など

履修科目の登録上限は、44単位（年間）である。ただし、教職科目など資格科目は、これに含めない。単位互換制度を利用した他大学における取得単位についても認定する。GPA制度は、成績優秀者の確定、卒業時の表彰、大学院への早期卒業制度への適用等、様々な推薦制度措置に利用する。

キ 施設、設備等の整備計画

(a) 校地、運動場の整備計画

町田キャンパスの校地・校舎、運動場整備は、校内美化委員会を設け、キャンパスの美化・緑化運動を推進している。また、学生同士の憩いの場として空地等への休憩ベンチ（教員が制作した手作りベンチ）の設置、学生ラウンジの整備、国際交流プラザの整備など開放施設

の利用を推進している。現代生活学部は、現在の校地、運動場を使用するので、特に整備の必要はない。

(b) 校舎等施設の整備計画

町田キャンパスの校舎等は、円滑に授業が行えるよう施設の稼働の効率化、集約化を計画する。同時に、身体障害者のためのバリアフリー化についてもさらに進める。現代生活学部は、現在の校地、運動場を使用するので、特に整備の必要はない。

また、現在、千代田三番町キャンパスは短期大学が使用しているが、平成 21 年度に学生募集停止を実施し、年次進行に伴い平成 22 年 3 月には、最終学年全員が卒業することとなる。その後、耐震補強工事、教育研究活動の充実のために必要な改修工事を行い、平成 23 年 4 月、現代家政学科、健康栄養学科の 2 学科について、千代田三番町キャンパスへの移転を計画している。

(c) 図書等の資料及び図書館の整備計画

附属図書館本館は、町田キャンパスの中心部に位置し、専有延床面積2,421㎡、書架棚総延長9,892m、閲覧席334席、個人学習室2室、グループ学習室3室、A Vコーナー、コピー室等や、貴重書庫及び貴重書閲覧室が整備されている。他に千代田三番町キャンパスに分室があり、学生は両図書館を利用できる。

本学は、家政学関係の資料収集には長い歴史があり、それらを核にして、住居、児童、福祉、日本文化、工芸、文化情報に関する専門資料を加えた蔵書構成である。特筆すべきものとして、大江文庫が挙げられ、江戸時代から昭和初期の生活・風俗、庶民教育などのコレクションは、学内外で高く評価され、活用されている。

ク 入学者選抜の概要

現代生活学部は、激動する現代社会の再構築に取り組むことのできる、また、情報化、グローバル化等が進む新しい時代にふさわしい健全な社会人・家庭人としての女性を育てることを目指す。そのため、広く深い教養を土台に、高度な専門教育を授け、応用力に富み実践力を備えた人材を育成するという目標の実現に向けて、アドミッションポリシーとして、次のような人物の入学を期待する。

- ・ K V A 精神を基本に、専門職業人として社会で活躍したいという目標と情熱をもつ人
- ・ 個人・家庭・地域・地球社会の真に豊かな生活の実現に貢献したいという強い意志を持つ人
- ・ 生活者の視点に立って、様々な立場の人と誠実かつ協調的に係わり合える人

(1) 選抜方法区分と募集定員

	A O 入 試	推 薦 入 試	地 区 入 試	一 般 入 試	センター試験 利用入試	計
現代家政学科	30	50	10	20	10	120
健康栄養学科	10	33	10	35	17	105
生活デザイン学科	30	43	10	27	10	120
児童学科	17	34	6	18	5	80
人間福祉学科	10	29	10	22	9	80

(2) 選抜方法区分の特徴

① A O 入試

志願者と本学との相互理解を確認するために、自己紹介文と、各学科の教育内容に関わる課題をもとに十分な面談を行い、面談の結果と出願書類による総合判定により選抜する。各学科が求める人材を予め提示した上で、本学及び本学各学科に対する興味と理解を確認し、本学に入学して学ぶことを強く志望する者を選抜する。

② 推薦入試

指定校推薦、一般推薦（公募推薦）、卒業生・在校生推薦を設ける。

○指定校推薦

高等学校における学業成績が、本学の指定した基準・条件を満たし、学校長が責任を持って推薦できる女子を対象にし、面接、出願書類により総合判定する。

○一般推薦選抜（公募推薦選抜）

本学が掲げる条件を満たし、学校長が責任を持って推薦できる女子を対象にし、小論文、面接、出願書類による総合判定により選抜する。

○卒業生・在校生推薦選抜

本学が掲げる条件を満たし、本学の建学の精神や教育内容を理解し、本学で学ぶことを強く希望している者で、学校長の推薦書に変えて本学卒業生または在学生在が責任を持って推薦書を提出できる女子を対象に、小論文、面接、出願書類による総合判定により選抜する。

③ 地区入試

本学が実施する学力試験の成績及び全体の評定平均値を総合評価し選抜する。試験会場を10都市（平成20年度実績）に設定して実施する。

④ 一般入試

本学が実施する試験の成績及び出願書類により総合判定する。

⑤ センター試験利用入試

大学入試センターが実施する試験の成績及び出願書類を総合判定し選抜する。

⑥ 特別選抜試験

○社会人特別選抜試験

社会人とは4年間以上の社会経験（職業の有無は不問）を有する女子をいう。小論文、面接、出願書類による総合判定により選抜する。

○海外帰国子女特別試験

日本国籍を有し、保護者の海外在留等の事情により外国で教育を受けた18歳に達する女子で、本学が定める一定の項目に該当するものに対し、小論文、面接、出願書類による総合判定により選抜する。

○私費外国人留学生特別試験

外国の国籍を有し、本学が定める一定の項目に該当する女子で「日本留学試験」を受験していることを条件に、小論文、面接、「日本留学試験」の成績及び出願書類による総合判定により選抜する。なお、小論文は、日本語で論述することを課している。

○編入学試験（3年次編入学）

短期大学を卒業する等、本学が定める一定の項目に該当する女子に対し、小論文、面接、

出願書類による総合判定により選抜する。入学後は3年次に編入する。

なお、学術学生交流協定を締結した中国からの留学生の編入学については、「日本語能力試験」2級に合格していることを条件に、面接、小論文（日本語で論述）、出願書類による総合判定により選抜し、渡日前入学許可を与える。

○学士入学試験（3年次編入学）

4年制大学を卒業する等本学が定める一定の項目に該当する女子に対し、面接、出願書類による総合判定により選抜する。入学後は3年次に編入する。

⑦その他

○科目等履修生

大学入学資格を有し、科目等履修生として入学を志願する者に対し、選考を経て受入れている。

○研究生

学士の学位を有する者またはこれと同等以上の学力があると認められた者が研究生として入学を志願する場合、予め研究課題を定め、研究指導を受けようとする教員の承諾を得た後、選考を経て受入れを行っている。

ケ 資格取得

取得可能な資格の一覧表

「現代家政学科」

資格の名称	種類	資格取得の条件等
中・高等学校教諭一種免許（家庭）	国家資格	所定単位を取得することにより資格が得られる
2級建築士	国家資格	所定単位を取得することにより受験資格が得られる
学芸員	国家資格	所定単位を取得することにより任用資格が得られる
フードスペシャリスト	民間資格	所定単位を取得し特別試験に合格後資格が得られる

「健康栄養学科」

資格の名称	種類	資格取得の条件等
栄養士免許	国家資格	卒業により資格が得られる
管理栄養士免許	国家資格	卒業により受験資格が得られる
栄養教諭一種免許	国家資格	所定単位を取得することにより資格が得られる

「生活デザイン学科」

資格の名称	種類	資格取得の条件等
中・高等学校教諭一種免許（家庭）	国家資格	所定単位を取得することにより資格が得られる
学芸員	国家資格	所定単位を取得することにより任用資格が得られる
1級建築士	国家資格	所定単位を取得し2年間実務経験を積むことにより受験資格が得られる

2級建築士	国家資格	所定単位を取得することにより受験資格が得られる
1級衣料管理士	民間資格	所定単位を取得し特別試験に合格後資格が得られる
フードスペシャリスト	民間資格	所定単位を取得し特別試験に合格後資格が得られる

「児童学科」

資格の名称	種類	資格取得の条件等
幼稚園教諭一種免許	国家資格	所定単位を取得することにより資格が得られる
小学校教諭一種免許	国家資格	所定単位を取得することにより資格が得られる
保育士	国家資格	所定単位を取得し卒業により資格が得られる

「人間福祉学科」

資格の名称	種類	資格取得の条件等
高等学校教諭一種免許 (福祉)	国家資格	所定単位を取得することにより資格が得られる
社会福祉士	国家資格	所定単位を取得し卒業により受験資格が得られる
精神保健福祉士	国家資格	所定単位を取得し卒業により受験資格が得られる

コ 実習の具体的計画

○教育実習（幼稚園、小学校、中学校・高等学校、栄養教諭）

教育実習は、学生の出身・卒業校、教育委員会の指定した学校または本学の併設中学校・高等学校において行う。実習に際しては、実習該当前年度から担当教員及び当該学生により、教育実習の時期、授業内容、教育実習までの準備などについて綿密な事前相談と打ち合わせを実施し、教育実習の成果が得られるよう連携をとる。教育実習期間に学科教員による研究授業の参観を行う。

○博物館実習（学芸員）

博物館実習は、文部科学大臣の指定相当である東京家政学院大学生生活文化博物館において、学芸員資格を有する担当教員による指導のもと実習に対応した指導を行う。該当学年時には、学外博物館6館においてバックヤード見学を実施、職員及び外部講師による講義を受ける。

○1級衣料管理士（テキスタイルアドバイザー1級）

企業、法人研究所などで実習を行う。実習の事前事後には実習先の担当者と教員による打ち合わせを行い、学生への指導にあたる。教員は、実習後に学内で実施される実習内容・課題に関する報告会の指導を行う。

○臨地実習（栄養士・管理栄養士資格）

健康栄養学科は、栄養士法に基づく管理栄養士養成施設の指定を受けており、臨地実習は合計で4単位修得しなければならない。実習では、栄養士業務（栄養教育及び給食経営管理等）の実際を現場において実地に修練し、管理栄養士として現場における最低備えるべき知識と技術の全般を修得するものである。

○保育実習（保育士資格）

児童学科は、児童福祉法に基づく保育士養成施設の指定を受けており、保育実習は合

計で7単位修得しなければならない。保育所、入所型児童福祉施設、通所型児童福祉施設の内容や機能、子どもの発達、保育者の役割など実践現場での体験を通して理解するために実習を行う。

○社会福祉士（社会福祉士受験資格）

人間福祉学科では、社会福祉士及び介護福祉士法に基づいて、所要の単位を修得した者は社会福祉士の受験資格が得られる。受験資格取得のためには、児童福祉施設、身体障害者施設、救護施設及び更生施設、社会福祉事務所、婦人相談所及び婦人保護施設、精神障害者施設、特別養護老人ホーム等の施設で現場実習を行わなければならない。

○精神保健福祉士（精神保健福祉士受験資格）

人間福祉学科では、精神保健福祉士法に基づいて、所要の単位を修得した者は精神保健福祉士の受験資格が得られる。受験資格取得のためには、精神病院、精神科診療所、保健所、市町村保健センター、精神保健福祉センター、精神障害者生活訓練施設、精神障害者福祉ホーム、精神障害者授産施設、精神障害者福祉工場、精神障害者地域生活支援センター、精神障害者地域生活援助事業（グループホーム）等の施設で現場実習を行わなければならない。

サ 企業実習や海外語学研修など学外実習の具体的計画

①インターンシップ

インターンシップは、「現場における実践的な体験を通して、組織で働くことへの責任、組織で要請される人物と能力を理解し、将来の職業選択の意識を高めるとともに、大学での学習目的をより確かなものにする」ことを目的として開設する科目である。本学の教育目標の一つとして位置づけているキャリア形成の要となる科目であり、学部共通科目として開設する。実習は夏季休暇期間に実施する。受入れ企業としては、国際協力事業を担う外務省認定の「社団法人 青年海外協力協会」、「NPO法人 コミュニティスクール・まちデザイン」、「パルシステム生活協同組合連合会」、「財団法人 消費者教育支援センター」などを予定している。

②海外研修

海外研修は、基礎科目の総合演習分野の科目として開設される選択科目である。研修内容は「英語研修」と「異文化理解」を隔年で実施する。平成15年度にはワシントン州立大学(米)、平成16年度にはワシントン州立大学(米)、平成17年度にはサンシャインコースト大学(豪)、平成18年度にはエディスコーワン大学(豪)、平成20年度には国立オーストラリアン・カソリック(A.C.U.)大学(豪)で「英語研修」を行った実績がある。

・学外実習の成績評価体制及び単位認定方法

「合格」の条件は、「説明会」、「事前授業」、「現地研修」（研修先での授業）に出席すること、及び終了後にレポートを提出することである。条件を満たせば単位が認定される。成績評価は、説明会・事前授業・現地研修への出席50%、レポートの評価50%の割合で、通常の5段階評価を行う。

ス 編入学の具体的計画

現代生活学部の5学科のうち、健康栄養学科を除く4学科は編入学定員を設定している。

現代家政学科と生活デザイン学科の3年次編入学定員は10名、児童学科と人間福祉学科の3年次編入学定員は5名である。

既修得単位の認定に関しては、学則第40条に「学長は、教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」とあり、また、同条第3項に「単位の認定方法に関する必要な事項は別に定める」とある。実際の認定作業は、同条項に基づき定められた「入学前の既修得単位の認定に関する内規」に基づき行う。

この基準をもとに、学術学生交流協定を締結した中国からの留学生の編入について、相手大学の推薦する学生の編入を行う。

セ 2校地での教育

現代生活学部は、当初、5学科とも町田キャンパスで教育を行うが、平成23年度以降、現代家政学科と健康栄養学科の2学科については千代田三番町キャンパスで教育を行うこととしている。

平成23年度以降、2キャンパスでの教育を円滑に実施するため、必要な施設・設備及び教員の配置に十全の配慮をする。また、両キャンパス間の教育、会議等を推進するため、テレビを活用した遠隔「授業・会議」システムを整備する。

ツ 管理運営

東京家政学院大学の教育・研究に関する管理運営は、教授会及び課題分野別に設置された各種委員会を補助機関として、これを決している。教授会は、学則において設置することを定めており、専任の教授、准教授及び講師をもって組織している。教授会においては、教員の選考、昇任、その他身分に関する事項、学術研究及び教育計画に関する事項、学生の入学、卒業、休学、退学、転学及び除籍に関する事項、学生の賞罰に関する事項、学生の厚生補導に関する事項並びに学長の諮問する事項、その他の大学重要事項を審議している。教授会の運営については、教授会運営規則により定めている。教授会は、原則として1ヶ月に一度開催し、その他必要な審議事項がある場合には適宜開催する。

また、東京家政学院大学における重要事項を審議し、学校法人東京家政学院との連絡調整を図る機関として、東京家政学院運営委員会を設置し、原則として一ヶ月に一度開催する。

さらに、懸案事項について、学部・学科間の整理・調整をして共通理解を図るとともに、教授会や上記運営委員会に諮る事項を決定するため、学長、副学長、学部長、図書館長、大学院研究科長、学生部長、事務局長で構成される部局長会議を開催するほか、事務局の局長、次長、部長、課長で構成される事務局課長会議を1ヶ月に2回開催する。

このように、学校法人及び大学等の組織体制を整備・点検し、常に管理運営全般の体制改善を図ることとする。

テ 自己点検・評価

東京家政学院大学の自己点検・評価は、東京家政学院大学・東京家政学院大学大学院自己点検・評価委員会を中心に実施している。

平成19・20年度は、本学が認証評価を受審することを予定している（財）日本高等教育評価機構の評価基準項目に基づき自己点検・評価を実施し、その結果を平成20年度末に自己点検・評価報告書に取りまとめた。

この結果は近日中に東京家政学院大学のホームページで公表する予定である。これ以前に実施した自己点検・評価の結果は、既にホームページで公表している。

また、平成19年度には以下のような組織・体制の整備を図った。

1. 東京家政学院大学事務局内に「企画・評価課」を新設した。
2. 代表権を有する理事長が委員長となる「学校法人自己点検・評価運営委員会」を組織し、学校法人全体で自己点検・評価及び認証評価に取り組む体制とした。
3. 法人事務局の自己点検・評価も恒常的に行うべく、「学校法人東京家政学院事務局自己点検・評価委員会」を設けた。

ト 情報の提供

情報の提供については、大学の広報戦略委員会で、学内外の広報活動、大学の統一イメージの形成、広報誌等の出版物、ホームページ等の管理・運営に取り組んでいる。

主な情報提供の方法として、インターネットを利用して自由に閲覧できるように大学のホームページを開設している。さらに、広報誌「学院だより」、研究紀要、教員総覧、学生募集要項、大学案内等の作成・刊行・配布等を行うとともに、報道機関、地方自治体等に情報提供を行っている。

大学ホームページは、本学の概要、諸行事、受験生を対象とした入試情報、就職や教育研究活動、課外活動の状況を紹介するほか自己点検・評価結果の情報を提供している。

ナ 授業内容方法の改善を図るための組織的な取組

平成17年度、東京家政学院大学教育改善（FD）委員会（以下「FD委員会」と言う。）を設置し、教員の資質向上に向けて取り組みを行った。委員会活動の最初の取り組みは、学生による授業評価システムの改善と確立である。

平成18年度には、FD委員会では授業評価結果を教員にフィードバックした後、授業評価結果を自分自身としてどのように評価するか、また、どのように授業改善に結び付けるかについてのレポートを提出し、具体的な授業改善に結び付くよう授業評価の改善を図った。

平成19年度からは、各教員は年1回以上公開授業を行い、更に平成20年度には2科目以上の公開授業を行うこととし、他教員が授業を参観することとしている。授業を参観した教員は、授業の中で参考になった点、全体的な感想、質問事項等を記載した「授業参観記録」を提出し、その記録は、授業担当者に還元され、授業が他の教員にどのように評価されているかを知ることができる。その後、授業担当者は「授業参観記録」内容についてコメントを記入する仕組みを整えた。公開授業は、教員が相互に研鑽する機会として能力向上に有効に機能している。

同時に、各学科においては、それぞれテーマを決めて研究会や意見交換会を実施し、学生支援にあたって、学科特有の問題や課題について教員間の共通認識・理解を得るための機会として活用している。

一方、FD委員会では、パワーポイント講習会を開催し、プレゼンテーションソフトを使用した授業技法の共有・研鑽を図る企画等も実施し、授業など学生指導の改善を図っている。

また、教員の資質向上のための取組みは、大学が掲げる教育目標の実現が最終目的であり、その教育目標の実現達成には、大学を挙げて教員・職員の円滑な協働体制を確立することが不可欠であるため、職員資質の改善（SD）の取組みを開始した。

FD、SDの開催に当たっては、場や機会について両者を峻別することなく、目的に応じ、協同して取り組むこととしている。このような観点から全学教職員を対象とし、教員・職員協同参加による「SD・FD講演会」を開催し、以下のようなテーマで平成19年度3回、平成20年度2回実施し、参加した教職員から効果的であったとの評価を得た。

平成19年度

第1回「今、大学に求められるもの ―未来予測を踏まえて―」

第2回「変化する時代の中の大学経営と教職員」

第3回「大学の認証評価とは何か―日本高等教育評価機構評価システムと関連して―」

平成20年度

第1回「東京家政学院大学の再生を期して」

第2回「拡大する教員の役割とFD」